

柔道ルネッサンスに寄せて

高岡工芸高校 一年 須藤 康太



小学生の皆さんおはようございます。

私は「柔道で礼儀をまなべば技光る」このようなフレーズを考えたのは、私が中学で柔道部に入部したのがきっかけです。

柔道部での三年間、部の顧問である朽木先生から、私達が教わったのは、技や技術だけでなく、日頃の生活の中で自分たちが心がけなければならないことでした。

それは、「大きな声であいさつをする、使った場所の後片づけやゴミの始末をすることや仲間を大切にすること、柔道だけではなく勉強もがんばること。」などでした。よく考えてみるとこれらは、「柔道ルネッサンス」の心構えそのものでした。

先生は柔道を志すものに対して当たり前のことを当たり前にできるようになってほしかったのだと思います。

私がさらにそのことを強く考えるようになったのは、大会が終わった後に残されていた、ペットボトルやテーピング、弁当の空箱を見たときでした。開会式にゴミは自分たちで持ち帰るようになっていたのに会場には多くのゴミが残されていました。

柔道が強くてもマナーを守ることができないのなら、その人はただ技が強いだけの人という印象しか残りません。マナーを守ることができただけでも一段と技の印象が違ってくるものだと私は思いました。

柔道では、試合の時の切れのある技で一本を取ってほしいと思います。

みなさんには、人間作りという柔道ルネッサンスの視点を大切に考えて、人間として、大きく成長することを目標に、これからも柔道を楽しみ、広めていってほしいと思います。